教えること学ぶこと

板野中学校長　漆　原　都　夫

「ひたむき」ということばがある。広辞宛によれば「直向き＝物事に熱中するさま、一途になるさま」とある。今年度の第25回全日本中学校道徳教育研究大会徳島大会の分科会のテーマには、すべて「ひたむきに、生き方を求める（深める）‥‥」となっており、最後が「ひたむきに、今を生きる実践」となっている。大川雄哉先生（立江中学校長）は「人は、どんなことでもひたむきに取り組んでいる姿が一番美しく、感動的である。今を生きている中学生にとって、『ひたむきな生き方』こそ、今、求められている課題であろう。」（全道研大会研究紀要）と、その説明をされている。

本校の「森口健司と３年Ｂ組37名」にとってのこの１年は、まさに「ひたむきに、人間としての生き方を考える道徳学習と同和問題学習」に取り組んだ一年であり、今までの中学校における道徳学習と同和問題学習のあり方を大きく揺さぶり、変えようとした試みであり、実践であったといえよう。

思えば、森口先生と出会って８年になる。私が1984年４月、藍住中学校に帰った時以来である。その頃のことをある本にこう書いた。

「ご多分にもれず中学校の荒れていた時代、柔道で鍛えた身体と優しい柔和な眼。遅れた子、荒れる子、問題になる子に一人一人根気強く、親身になって話を聞き、注意する態度に、人をひきつける魅力。飲みながら話し合えば、夜を徹して熱っぽく語る教育論、子どもへの思い。『この頃の若い教師は‥‥』なんて言葉は、彼の前には、ベテランといわれる教師は何をしているんだ、と言いたくなる。道徳教育が始まって33年、同和教育が本格的に行われ出して22年、その重要性はだれもが認めながら、中学校現場において、道徳授業と同和問題授業に本格的に取り組む教師の少ないなかで、部落差別を始めあらゆる差別を憎み、常に被差別者、弱者の立場に立ち、差別解消のために、生徒と共に取り組み、生徒たちの熱い思いを引き出していく。それと共に、『人間としての生き方を考える道徳教育』をめざして、文学を語り、人生を考えながら、いつの間にか教師を変え、生徒を変え、学校を変えていく。」（体験的校長学読本）

1984年の出会いから２年間、再会を約して、私は半田町の奥へ、１年後、彼は鳴門市の瀬戸中学校へ。藍住中学校で文部省指定の同和教育の研究を成し遂げ、次は瀬戸中学校で文部省指定の道徳教育の研究。また彼のひたむきな努力が始まる。

そのころのことを別の本から抜いてみると、「藍住中学校で２年いっしょにいて、社会科、同和教育、生徒指導、柔道と熱意あふれる指導に感心していたが、瀬戸中学校で昨年６月『瀬戸の

かじこ』（3年）の授業を見せてもらって、新任校で2ヶ月余りの3年生とみごとに息の合った授業、生徒一人一人が資料の人物と自分の思いをからませて、息の長い発表に道徳授業の一つのあり方を見た思い。さらに地元を舞台にした自作資料「慟哭の海」の創作過程と授業記録もすばらしいものだった。」（豊かな心を求めて『初版』）

そして、3年前、私は板野中学校へ、1年後、彼に板野中学校へ来てもらう。それからの活躍ぶりは、本書をご覧いただければおわかりの通りだが、それにしても、よく学び、よく教え、よく頑張ってくれたこと。ただただ感謝の言葉しかない。

私は長い間道徳教育にたずさわってきて、道徳教育と同和教育の接点を求め、共に人間教育として考えられないだろうかと思ってきた。しかし、極論する人は、道徳教育と同和教育は水と油だと言うし、同和教育関係者は、道徳教育を無視した感じだし、道徳教育関係者は、同和教育に近づこうとしない。だが考えてみるまでもなく、同和問題学習は道徳の時間に行うことが多いし、徳島県版「私たちの道徳」にも、初版以来、同和教育資料を入れて指導するようにしている。そして、学級で道徳学習も同和問題学習も授業しているのは同じ学級担任である。

ここに入っている9編の授業記録、どれが道徳学習で、どれが同和問題学習なのかという区切りを考えるより、生徒たちの熱い思いを読み取ってほしい。こうした記録が、「森口先生だからできる、板野中学校の生徒だから言える」と言って逃げないで見てほしい。

富田中学校での特別公開授業で生徒から出た発言、「道徳教育と同和教育は全く一緒ではないかもしれないけど、結局つながっているんだと思います。」「同和問題の学習も道徳の学習も一緒で、人間の生き方につながっているものだから、みんないろいろな意見が出たと思うんです。」ということばをもう一度考えてほしい。道徳学習、特別活動、同和問題学習の違いが強調された時期もあったが、それぞれのねらい、特色をしっかりつかんでおくこともちろん必要だが、基本的には学級担任と学級の生徒との間で行われるものであり、人間としての生き方の自覚を深めるという点では共通点が多いのだから、学級担任の先生は、道徳、学活やゆとりの時間をもっと大切にして、生徒に教えるのではなく、生徒と共に、人生について、人間について、考え、話し合い、学び合っていくことこそ、今、中学校教育に最も求められているのではないだろうか。

豊かな心を求めて、心の教育、人間教育、人権教育とことばはいろいろあっても、教師が生徒に教えようとする姿勢より、生徒と共に学び、共に成長していこうとする姿勢を持ち続けてほしいと思う。何よりもこの一冊から、森口先生と生徒との思いをつかみ、教壇実践に生かしていってもらいたい。それと同時に、教職10年、これから成長していこうとしている森口先生に気づいたことを教えていただき、共に差別解消に向けて、手をたずさえて前進していってくださることをお願いするしだいである。

目　次

《教えること学ぶこと》……………………………………板野中学校長　漆原　都夫

1　はじめに《1991年度に思う》…………………………………… 1

2　授業「私の目を見て！」〈1990年12月14日（金）〉…………………… 8
(1)　【「私の目を見て！」の学習に思う】…………………………… 8
(2)　【授業記録】　主題「誇りうる生き方を求めて」……………… 9
(3)　【資料】「私の目を見て！」（土方　鉄）……………………… 17
(4)　【「私の目を見て！」の学習を土台として】………………… 20

3　授業「峠」〈1991年4月21日（日）〉………………………………… 24
（ＰＴＡ授業参観）
(1)　【授業記録】　主題「峠を越えて」………………………………… 24
(2)　【資料】　詩「峠」（真壁　仁）………………………………… 32

4　授業「自分以下を求める心」〈1991年4月30日（火）〉………………… 33
（公開授業及び全体授業）
(1)　【指導案】　主題「人間としての生き方を求めて」…………… 33
(2)　【授業記録】　主題「人間としての生き方を求めて」………… 38
(3)　【資料】「美しさを求めて生きる人生を」（佐藤文彦）………… 46

5　授業「礼が遠くなる」〈1991年6月17日（月）〉………………………… 54
（徳島県中学校道徳教育研究会授業研究会）
(1)　【指導案】　主題「挨拶について」……………………………… 54
(2)　【授業記録】　主題「挨拶について」…………………………… 57
(3)　【資料】「礼が遠くなる」（佐藤文彦）……………………………… 65

6　授業「同和教育への希い」〈1991年6月25日（火）〉…………………… 66
（第35回板野郡同和教育研究大会公開授業）
(1)　【指導案】　主題「誇りうる生き方を求めて」……………… 66
(2)　【授業記録】　主題「誇りうる生き方を求めて」…………… 73
(3)　【板野郡同和教育研究大会公開授業を終えて】……………… 82
(4)　【資料】「同和教育への希い」（丸岡忠雄）…………………… 84

7　授業「ナイン」〈1991年10月31日（木）〉……99
（第25回全日本中学校道徳教育研究大会徳島大会特別公開授業）
(1)　【指導案】　主題「生きる絆」……99
(2)　【授業記録】　主題「生きる絆」……105
(3)　【全日本中学校道徳教育研究大会徳島大会特別公開授業を終えて】……117
(4)　【資料】「ナイン」（井上ひさし）……123
(5)　【全日本中学校道徳教育研究大会徳島大会特別公開授業への思い】……128

8　授業「水平社宣言」〈1991年10月11日（金）〉……137
（第３学年全体学習公開授業）
(1)　【指導案】　主題「誇りうる生き方を求めて」……137
(2)　【授業記録】　主題「誇りうる生き方を求めて」……144
(3)　【資料】「水平社宣言」……154
(4)　【資料】「水平社宣言」（解説）……155

9　授業「水平社宣言讃歌」〈1991年11月19日（火）〉……160
（第21回徳島県中学校同和教育研究大会公開授業）
(1)　【指導案】　主題「誇りうる生き方を求めて」……160
(2)　【授業記録】　主題「誇りうる生き方を求めて」……162
(3)　【資料】「水平社宣言讃歌」（西口敏夫）……174
(4)　【徳島県中学校同和教育研究大会公開授業を終えて】……184
(5)　【徳島県中学校同和教育研究大会公開授業への思い】……189

10　おわりに《出会いに感謝して》……196